

読む ミソク

新入社員で給与十五万円のすべてをもらえると聞いて、七万円のアルバイトを借りて残りで生活ができるかと考えていたところ、種々差し引かれ、生活設計が狂ったとあせっている人がけっこういるらしい。

考えてみれば、今の学生に税金(所得税・住民税)、社会保険(健康保険・介護保険・雇用保険)、年金などの負担があることをどれ

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

だけ教えているのだろうか？
だから、未納を含めいろいろ問題が噴出し深刻な状況になっている。

国民年金は、未納額が昨年には総額一兆円にもなり、県内でも五十億円を超えて、二十歳代前半においては未納者が60%以上にもなっている。

生活に追われている人だけが未納者ではない。なぜ払わないといけないのかという意識そのものが希薄なのである。将来年金がもらえるかどうかからないから払わないという論理らしいが、その分貯蓄をして将来に備えている

わけでもない。

働いている人が払っている社会保険料は実質半額で、残りは雇用側が負担している。今問題になっている年金負担分が広がれば、雇用者負担が増え、パートの利点も減り社員削減など

の影響が出る可能性がある。健康保険は払っていないければ病院で保険が利かない。お金もないし健康だからと健康保険に加入せず、病気になるって慌てて保険に加入しようとしたら、さかのぼって保険料を請求される

なぜ払わないといけないのか？

て莫大なお金を払わざるえなかったという人もいます。これらのことを知識としてあたりまえにもっている人はどのくらいいるのだろうか？ 正直私も会社経営をするまで、ほとんど知らなかった。

は想像がつかない。中学や高校でマネーゲームを取り入れ、実践的にお金の流れを肌身で感じれば「いかに払わないでおこうか」から「どのように有効に活用させるか」が見えてくると思う。そうならば、行政や政治家に対して

も、単に金額が上がった下がったという話ではなくなる。

税金や社会保険、年金の知識は本来生きていくためには必要不可欠である。大げさではなく、国民として国を支えていくのに、人間でたとえれば血液と同じくらい重要なことは、授業で机上理論として習うくらいでは

このままでは、きちんと払っている人の負担額ばかりが増える割にはむくわれず、老後だけでなく日々の生活そのものが心配になっているのは私だけではないはずだ。